

## e-ビーフNEWS 北の牧場から

May 2024

## 十勝は アツという間に夏

気温が急上昇。4月でも25℃越す夏日が何日かあります。急すぎる気温上昇に、草木が追い付かない。先日桜の開花と思いきや梅からモクレンから水仙、チューリップから一斉に花が咲いています。出遅れた葉っぱ類も急ぐ急ぐ、木々が真新しい緑に覆われてきました。十勝を囲む深紺の日高雪山系が、クッキリと青空に映えます。これぞ坂本直行が描く早春の十勝平野です。シカやキツネや野生動物も頻繁に出没。山菜取り人とのクマとの遭遇もしばしばに出ています。

とかちの畑作業は、今真っ盛り。ビートのポット植えが終わり次々の作業が一斉に始まりました。牧場作業も畑作りで汗々。余りに真早すぎてトラクターも故障続き、修理しながら頑張っている。5月のデントコーン播種まで忙しい日が続きます。連休明けには、町内牧野への放牧も始まり、準備整えた肉牛育成が放たれます。春のスタートです。



## 活動のお知らせ

- 4/11(木)13:30 HOBAB北海道オーガニックビーフ振興協議会 総会 とかちプラザ  
記念講演会(13:30~15:20)  
「工業的畜産から有機畜産への転換—世界の潮流と日本のこれから—」  
愛知学院大学 経済学部 経済学科 関根佳恵教授 日本有機農業学会理事 30名参加、モニター10名
- 6/15(土)頃 環境リサイクル肉牛協議会 総会 道総研畜産試験場

## NEWSばか読み

- 厚労省 農業雇用労働者の農機研修の義務化を検討  
4/1:農業事故を減らそう
- コメ主産地で24年度産高温耐性品種の作付け拡大5割増  
4/2:牛も耐暑性必要
- 全農くみあい飼料が発足 全国シェア最大  
4/2:大規模のメリットを生産者に
- ホクレン乳牛市場 5か月連続で上昇 初妊牛68万円4/2:拡大基調へ
- 2月農産物輸出2%減 中国向けが低迷 牛肉は依然伸びる4/3:
- JA全農 営農管理システムZ-GIS試験運用開始4/4:進化期待
- 米国 低関税枠消化 最大ブラジルがシェア確保 4/5:国際競争
- コメ主産地24年産 飼料米減産傾向 転作助成減影響  
4/6:施策でほんろう
- 農水省 加工業務用野菜シェアの国産化目指すプロジェクト立上げ  
4/8:肉も
- 農研機構 日本初在来品種DB完成し公開開始4/9:遺産大切に
- 農水省 22年農業所得 酪農繁殖肥育でマイナス  
4/9:浮かんでこない
- セブンイレブン 今春から麺類全品に国産小麦使用  
4/10:一つの流れ
- 農水省調査 6次化販売額が過去最高2兆1千万円  
4/10:観光需要回復
- 農水省 農業物価指数2月 生産資材農薬農機具が最高値  
4/10:どこまで

- 牛マルキン2月肉専用種 39道府県発動 価格低迷4/11:
- 国交省 下水汚泥肥料利用の解説書作成普及へ  
4/11:本当に安全なの
- 大豆収穫量23年度15年間で最高26万t 4/13:安定需要先確保へ
- 総務省 日本の人口13年連続減 75歳以上2000万人超え  
4/13:顕著
- 相次ぐドローン事故 農業散布中の操縦ミス4/12:まだまだ
- 輸入果汁の価格高騰で販売中止や値上げに  
4/16:この機に国産化
- 農業倒産件数が過去最多 資材代が影響4/17:増加傾向
- 訪日客3月300万人超え 桜シーズン4/18:花咲いてほしい
- 農業基本法改正案可決 4/19:様々な問題点が生きてなく
- 消費者庁 機能性表示食品で147件に健康被害4/19:事の発端
- クボタ 水素燃料トラクター公開 農機具も脱炭素化に  
4/22:グリーン農業
- 人口戦略会議 消滅可能性が4割の744自治体4/25:少子化深刻
- 円安加速34年ぶりの水準4/26:輸入高騰ベース変わらず悪化
- 23年冷食出荷額が過去最高7800億円 簡便志向好調  
4/27:国産需要掘り起こし
- 鹿追 日東電工とエアウォーター バイオガスからギ酸製造 飼料添加剤へ4/28:
- オレンジ果汁 世界的な不足 飲料メーカー販売中止  
4/29:国産化に

## 東京直近NEWS(4/29 Shi-REPORT)

## ホルス

市況相場は低迷状況も生産地はコスト上昇継続しており産地相対取引価格は高値維持。

販売状況、GW前までは輸入物コストアップもあり比較的引合問合せ増加。切落し原料赤身バラ系中心に引合強いが、高級部位は停滞シカタローは苦戦。全般販売状況は弱い輸入物の影響からやや引合回復している印象。産地の相対取引価格は高値維持しておりマーケットとギャップあり。GW明けの荷動きも不透明感あるものの、輸入物不足から一定量維持か。

## 経産牛

経産牛相場は高値維持。

出回り頭数の減少傾向変わらずも、市況に大きな影響出るまでには至っていない。

3月年度末は離農等もあり頭数はある程度出荷増だった模様。

販売は輸入物の不足感から4月入り、赤身モモバラ中心に問合せ増。

トモバラ、プリスケは引合強く余剰無し。

挽き材は各産地在庫減少傾向から価格改定の動きあり。

先々の頭数不足予測から相場上昇と販売数量調整の可能性あり

